

炭疽病の発生が確認されました。発生圃場では発病葉を摘葉後、直ちに薬剤防除を実施してください。

現在の状況

- 1 本病は例年7月中旬から発生するが、本年は7月上旬に発生が散見されている（図1）。
- 2 向こう1か月（7/3～8/2）の降水量は平年並か多い予報であり、昨年のように7月が多雨で経過した場合、今後の急増が懸念される。

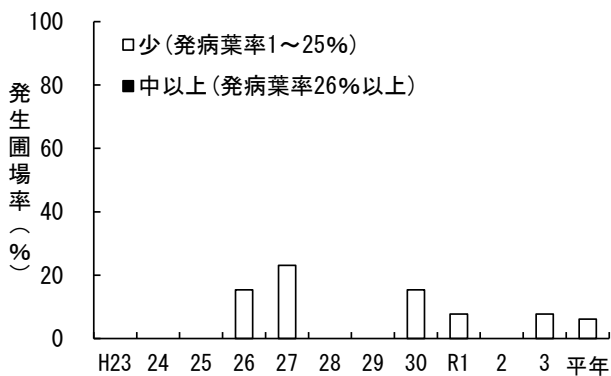


図1 炭疽病の年次別発生推移（7月上旬）



図2 炭疽病の病斑

※病斑が少ないうちに積極的に摘葉すること

防除対策

- 1 発病を確認したら、初期の発病葉（図2）を摘葉後、直ちに効果の高い薬剤を散布する。
- 2 現在発生が見られなくても予防散布に努め、アーチ両側から十分量を丁寧に散布する。
- 3 発病葉を残すと、病斑部から多量の胞子が落下し、発病葉直下では生長点や新展開葉で発病して早期枯れ上がりの原因となるため、発病初期の摘葉を徹底する。
- 4 QoI剤、SDHI剤は、耐性菌の発生リスクが高いので年2回以内の使用とする。使用する場合は連用とせず、止め散布には使用しない。

☆農薬危害防止運動実施中（6/1～8/31）☆

【利用上の注意】

本資料は、令和3年7月1日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

- ・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・農薬使用の際は（1）使用基準の遵守（2）飛散防止（3）防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/index.html>

